

中城湾港新港地区 物流促進支援事業 シンポジウム

うるま市 国際物流ハブへ

沖縄2世紀ビジョンに産
造業が集積している県内唯
港新港地区。この地を国際
活性化を目指して中城湾港
ジウム(うるま市主催、琉
の県工業技術センター)で
元うるま市のほか立地企業

コーディネーター
富川盛武氏



パネルディスカッションでは、いよいよ。世界経済の重心はアジ
アに移っている。アジアは人口の
る抜本的な物流改革について考え 伸び率も高い。日本はすでに人口 国内でも配送網の「ビッグバン」
たい。まず始めに全体状況について 減少局面に入り、沖縄も2022
て確認しておきたい。
アジアは世界の国内総生産(GDP)の34%を占め、北米をしの 一方、商船のトン数や輸出総額 もはや辺境ではない。スムーズに
は飛躍的に伸びている。中でも中
1日(で)復讐できる「シームレス交
通体系「東アジア1日圏」は拡大
している。拡大するアジアを大前
提に、沖縄・中城のあるべき物流
を考えなければならぬ。
キーワードを①那覇港湾との有
機的連結②多機能型物流倉庫③R
OROターミナルを持つ国際物流

パネルディスカッション「アジアと日本の架け橋となる抜本的な物流改革とは」



玉城 恒美氏

■ 現状 ■

富川氏 まず各氏から自己紹介
と現状認識を。
玉城恒美氏 那覇空港は全日
空、ヤマト運輸の国際物流拠点
(ハブ)として活動し、国内3番
目の国際貨物を出している。今後
ますます増えるだろう。アジアは
発展し、物流は動いている。
うるま市は120坪が特区に指
定されている。これだけの後背地
があるのはご想像。本日、市
長の講演があったがトップが講演
するのは珍しく、熱意を感じた。
50年の歴史を踏まえて、県も一緒
に取り組んでいきたい。

那覇と有機的連携を

金城盛順氏 沖縄のものづくり
産業振興のため人材育成をしよう
と県立型技術研究センターで活動
している。育った人材は地区の立
地企業が雇用している。
人を育てるには、作るべき具体
的なものが必要だ。県内外の企
業とネットワークを持ち、沖縄な



金城 盛順氏

多機能型倉庫で好循環

名護宏雄氏 中城湾新港地区協
議会は初期に立地した企業が行っ
た組織で、企業間で横のつながり
を持つと交流している。海岸清
掃や除草など環境整備、小規模な
事業所は合同で定期健康診断もし
ている。
第一次分譲から20年経ったが、

富川氏 それぞれの立場から課
題と突破口は。
桑江氏 土地、電力、水を他県
レベルに整備する必要がある。長
く要請しているが変わらない。物
流も、鹿児島以北の国内定期便が
必要だ。
金城氏 船会社にとっては貨物
量が大切だが、沖縄はマーケット
が小さいので工場を建てて物を作
らうとしない。悪循環だ。そこ
で多機能型倉庫の考え方があ
る。おのの量は少ないが多くの機
能を持たせる。九州は戦略的に韓
国と連携しようとしている。台湾
は沖縄に近く、思う以上に工業立
国だ。中城湾港を整備すれば、近
所にある優位な地との連携も可能
になる。

富川氏 ハブである那覇空港や
那覇港との有機的連結は。
玉城氏 那覇近辺には場所もイ
ンフラもない。那覇は軽いもの、
すぐに動かすものを作り、しほら
く保管が必要なものや重いもの
は、場所のあるこの地区を使う。
那覇の後背地として活用すると県
全体として都合がいい。



桑江 修氏

富川氏 船の寄港を増やし、国
際物流拠点とするために、今でき
ることは。
金城氏 すでにある課題を丁寧
に理解してほしい。立地企業から
は「国外出荷をしよう」と工場を作
ったが、港も航路もないままだ」と
苦情が出ている。台風で材料が
届かない期間が年間4カ月もあ
る。小規模な事業所が共同で材料
を保管する倉庫が必要だ。
玉城氏 企業が進出しやすい環
境作りは進んでいる。沖縄に合っ
た製造業、物流の誘致が必要だ
が、沖縄がまだ知られていない。
PRが必要だ。

桑江氏 大きな港には必ず保税
展示場がある。通関を経ずに商談
だけをする場だ。多機能型倉庫に
この機能があれば、県外、国外に
も沖縄をPRできる。RORO船
も必要だ。沖縄にはたくさんの中
古車がある。コンテナに入らない
荷物もある。
名護氏 東西埠頭に倉庫が1棟
ずつあるが、現在の300坪では
足りない。1000坪程度で自分
たちの倉庫、展示場、販売に加え
て津波の避難場所としても使える
高層棟を希望している。防災の視
点も考慮してほしい。

官民の地域組織 必要

■ 具体策 ■

富川氏 振興へ、具体策は。

玉城氏 荷物の増加や航路は民
間活動。担うのは誰かを見定め、
動きかけてほしい。福岡市は台湾
で、RORO船である琉球海運の
台湾航路を活用してほしいと現地
企業に説明会を開いている。下関
市も同様だ。
金城氏 環境エネルギーの視点
も重要だ。生産場所から近い港か
ら出せば、エネルギーロスが少な
く環境負荷も小さい。
桑江氏 台湾は風力発電の特許
を持っている。これを沖縄で作
り、日本製として日本や中国に売
りたいという話もある。できるこ
とはたくさんあるが、誰が担うの
かを決めなければ、進まない。
名護氏 那覇港には管理組合が
あり、要望や計画を行政に上げて
いる。中城でも行政と民間が一緒
に考え、まとめる組織が必要だ。
富川氏 うるま市は情熱をもっ
て取り組んでいる。機は熟してい
る。一歩一歩重ねていけば、早く
展開するかもしれない。



保税展示場で沖縄PR



名護 宏雄氏

企画・制作 琉球新報社広告局